

写真集, マンガ, エコバックの配布により量研が担当する機器・活動の紹介をし, 特に製作フェーズにあるトロイダル磁場(TF)コイルや中性粒子入射加熱装置(NBI), ジャイロトロン製作状況等と製作計画, さらに今後の現地作業計画等の説明を行った(図5左). 一般向けにITER計画をわかりやすく解説する目的でマンガ(Vol.1, 2)を作成し, この英語版と仏語版を配布した. こちらは特に多くの来訪者から好評を得ており, 第3弾を期待する声も多く寄せられた(図5右).

5. ITER機構インターンシップ体験談: 永田亜実

ITER機構インターンシップに参加したのは, エクスマルセイユ大学, 南山大学を卒業し, 2018年の春から夏にかけての4ヶ月, パリ政治学院に入学する準備期間であった. その前の2年間, ITER建設サイトの近くの町, エクサンプロヴァンスの大学に通っており, ITERに関して耳にしたことがあった. あるきっかけで, 実際にITERで働いている方々と山登りに行き, 言葉を交わしている間に, 未来のエネルギーにかける情熱が伝わってきた. 大規模なチャレンジをサポートしたいと思い, ITERでのインターンシップに応募した.

テクニカル専門でなかったため, 人事部とコミュニケーション部に4ヶ月間配属された. 人事部では, 書類作成や, 若者採用プログラムのベンチマーク市場調査を行なった. コミュニケーション部では, あらゆるミッションをこなした. 例えば, 世界各国のSNS使用の分析, 日本人職員増加のための戦略, ITER職員のためのウェブコンテンツ改良(記事やイベント宣伝記事作成など)など.

日々の仕事はとても興味深く, 私が役に立つためには何ができるか, と考えることから始まり, 何度も部長とのミーティングをした. 「自分が全力で取りかかれるミッション, 亜実が興味のあることを進んでしなさい.」この部長の言葉に背中を押され, 委託されたミッションだけでなく, 自ら「やりたい」と思ったことを提案し, 実行した. その中の一つが, インターン生紹介ビデオである. あらゆる企業のビデオを参照し, またインターン生とのインタビューを通して, 自分でスクリプト, 場面設定を考え, 同僚のカメラマンに撮影をお願いした. そして, BGM選択や, 撮影したテープの編集など, 全て同僚と二人で行なった. 完成後, 人事部との合同ミーティング時にビデオを披露したところ, 温かい言葉, 高い評価をいただき, 自分が役に立てたことに喜びを覚えた. たとえインターン生であっても, 私の提案を承諾し, サポートしてもらえる環境が, 私の成長に繋がった.

また, 職場での人との出会いは, 私にとってかけがえない経験になった. もともと明るく, 社交的な性格であり, またインターナショナルな環境で育ったため, もっと職場での交流を増やしたいと思い, 内部イベントを度々計画した. インターン生同士のランチや, 国際交流,



図6 インターン生との就業日最後のランチ.



図7 日本の職員の方々のお別れ会.

またダイバーシティ理解のためのイベントなどを通し, ネットワークが広がった(図6, 7). 特に, インターン生の輪は, 家族のような存在であった. ランチを共にするだけでなく, 土日にプロヴァンス探索に出かけたり, 仕事終わりに遊びに出かけたりなど, 私生活も, とても充実した. ラベンダー畑を見に出かけ, 溪谷, 湖でのキャンプなど, 自然が豊富なため土日にリフレッシュに出かけられるのは, 南フランスの魅力である. また, 文化や習慣の違う国の人々と時間を共に過ごすことにより, 自分の環境順応能力も向上した.

ITERで培った知識, スキル, そしてネットワークは, 私の人生の宝物. この経験を生かし, 今後は国際的な舞台で活躍できるように精進したい.

(インターン生紹介ビデオ:

<https://youtu.be/M4As3d7JAOI>)

(量子科学技術研究開発機構
核融合エネルギー研究開発部門)